

# 消化管内科プログラム

## 【研修(カリキュラム)の特徴】

現在の厳しい医療環境を生き抜くには、開業医を目指すにしろ、勤務医になるにせよ、他の医師との差別化が必要です。当科は、機能的胃腸疾患、炎症性腸疾患、消化器がんの診断治療について阪神地区のセンター病院として機能しているという特徴を生かし、関連病院と連携したプログラムを作成しています。当科の研修の目標は、消化器疾患を中心とした内科的な基礎能力の育成と専門医取得をターゲットにしています。とりわけ情報公開時代の現在、専門医の公示は患者さんへのアピールに不可欠です。

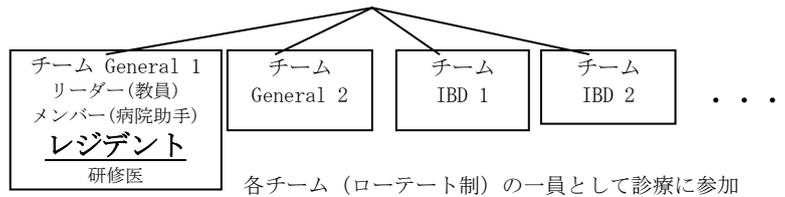
当科では食道や胃、小腸、大腸などの消化管疾患全般の病気を対象とした治療を行っており、その中で特に消化管がんの診断と治療、機能的消化管疾患の診療に力を入れています。近年診断技術の進歩により、早期の食道がんや胃がん、大腸がんが見つかることが多くなりましたが、内視鏡技術の進歩によりこれらのがんの多くが内視鏡治療により完全に治癒することができるようになりました。当科でも最新の内視鏡機器を用いて内視鏡治療にあたっており、近隣の施設で内視鏡治療が困難と判断された症例も含め、積極的に治療に取り組んでいます。内視鏡治療だけでなく消化器がんに対する集学的化学療法に関しても積極的に行っており、上部・下部消化管外科、病院病理部の先生方と合同カンファレンスを開催し、個々の症例の治療方針を意見交換しながら決定しています。また JCOG (Japan Clinical Oncology Group) や WJOG (West Japan Oncology Group) に認定された施設として、新たなガイドライン作成に向けた臨床試験に積極的に参加しており、多施設共同の大規模臨床試験だけでなく、厚生労働大臣から先進医療の承認を受けた治療も積極的に行っております。

## 【研修目標・到達目標】

当科での臨床研修は、消化管内科医として必要な研修プログラムを作成しています。具体的なプログラムとしては、上・下部の内視鏡検査、消化管 X 線造影検査、腹部超音波検査などの検査技能の習得を第一目標としています。特に消化器疾患は患者数が多く、技術習得と種々の疾患の経験を得やすいことが当科の臨床研修の大きなメリットです。最低でも週に 3 日の内視鏡検査を実施・研修することで、卒後 3~4 年でルーチン検査をこなせるように指導します。卒後 4 年程度で日本内科学会認定医（平成 30 年からは卒後 5 年目に内科専門医）を取得し、7, 8 年程度で日本消化器病学会や日本消化器内視鏡学会の専門医として消化器疾患の診断および治療がおおむねできるようにプログラムが組まれています。なお、入局後の臨床研修にあたっては、本人の希望と能力に応じて、関連病院（兵庫医科大学ささやま医療センター、宝塚市立病院、明和病院、神戸掖済会病院、尼崎中央病院、西宮脳神経外科病院、製鉄広畑病院、大阪暁明館病院、浜松労災病院など）における臨床研修の組み合わせで、一般的な内科疾患への経験を積むことも可能です。

## 【後期研修（卒後 3-5 年目）カリキュラム】

後期レジデント期（3-5 年目）には、消化器内視鏡の基本手技のマスターと消化器疾患の管理の基本をマスターします。病棟では、指導医（教員）の先生ならびに臨床研修医と 3~4 人のチームを組み診療にあたります。内視鏡写真検討会、消化管 X 線写真読影会、新患カンファレンス、論文抄読会、内科・外科合同カンファレンスなどに参加します。3 年目の消化管内科に入局後、直ちに日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会に入会します。



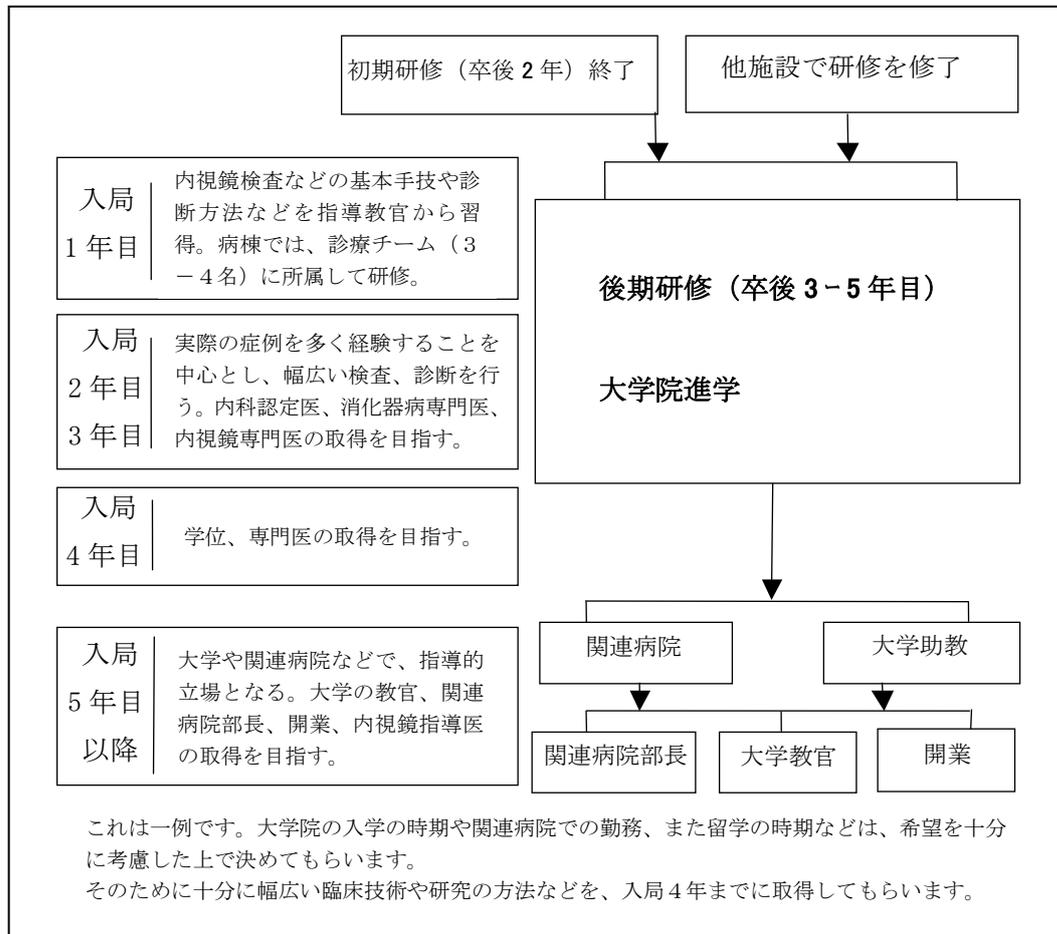
5 年目以降の夏に内科専門医の資格認定試験があります。合格後は、消化器内科の専門医を目指しての臨床研修を引き続き行います。病棟や検査では、第一線の医師として診察に当たります。また担当した症例を選択し、学会発表などの指導もおこなっています。

### 【レジデント A (卒後 3 年目) の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、レジデント A (卒後 3 年目) 期間中に 3 ヶ月間の他科の研修を希望により行うことができます。また新・内科専門医制度に対応するために履修すべき領域に配慮して、研修プログラムを作成しています。

### 【その他 6 年目以降】

6 年目以降は、ある程度自分の専門性を持ち、臨床や研究にあたります。チームやグループの中堅またはリーダー役としての役割を担います。研修医の指導にあたることも大きな経験になります。消化器病専門医試験・消化器内視鏡専門医試験・消化管認定医試験があります (卒後 7-8 年目)。消化器疾患の基礎及び臨床を深く研究する場合は、大学院進学が可能です。(むしろ大学院進学は、就職面で有利に働くことがあり、専門的研究に従事し博士号を取得することは大学ならではのメリットです。大学院は卒後 2 年目から進学可能です。また、H18 年度より夜間大学院制度が開始され、他院や本学で昼間勤務した上で研究歴を得ることも可能です。)



## 【後期研修での行事（カンファレンス、症例検討会）】

教授回診：毎週月曜日 15:00-16:00

内科医局会：第2, 4週 月曜日 17:30-18:30

論文抄読会：月曜日 18:30-

新患カンファレンス 月曜日 13:30-14:30

消化管内科・上部消化管外科・病院病理合同カンファレンス 月曜日隔週 20:00-21:00

消化管内科・下部消化管外科・病院病理合同カンファレンス 第二水曜日 19:00-20:00

## 【大学院進学・留学について】

研究内容は消化管の基礎から臨床研究まで多岐にわたります。また海外の研究施設との共同研究も行っています。臨床業務と平行して、夜間大学院に進学することも可能です。必要に応じて国内留学、海外留学も可能です。当科の大学院生は優れた研究成果を上げトップジャーナルに多数投稿しています。

## 【関連病院】（下線病院は卒後3年目以降の臨床研修として派遣実績のある病院です。）

○兵庫医科大学 ささやま医療センター ○宝塚市立病院 ○明和病院 ○神戸掖済会病院

○協立病院 ○尼崎中央病院 ○西宮協立脳神経外科病院 ○製鉄広畑病院 ○中井記念病院

○宝塚第一病院 ○野村海浜病院 ○植木病院 ○大久保病院 ○大阪暁明館病院 ○浜松労災病院 など

## 【新専門医制度下における連携施設（予定）】

- 兵庫医科大学ささやま医療センター ○宝塚市立病院 ○明和病院 ○神戸掖済会病院
- 協立病院 ○尼崎中央病院 ○西宮協立脳神経外科病院 ○製鉄広畑病院 ○大久保病院
- 大阪暁明館病院など

## 【指導医】

主任教授：三輪 洋人（指導責任者）

教授：渡 二郎

講師：福井広一、大島忠之、富田寿彦、應田義雄

助教：戸澤勝之、河野友彰、小林正弥、奥川卓也、原 謙、田村彰朗、中村久美子、瀧本真弓

## 【研修統括者】

助教：戸澤勝之

## 【問い合わせ先】

入局希望者は気軽に医局長までご連絡下さい。いつでも相談に応じます。

医局長、研修管理委員 戸澤 勝之

TEL：0798-45-6662（内線 6662）

E-mail：katu-you@hyo-med.ac.jp